

L. melanantha Nakai var. *densa* Nakai in Bot. Mag. Tokyo 49: 349 (June 1935).

L. melanantha Nakai f. *rosea* Nakai in Journ. Jap. Bot. 15: 680 (1939), cum diagnos. latin.

Floribus roseis ut in typo (f. *bicolor*).

Nom. Jap. Beni-kurobana-kihagi (Nakai May 1935), Chabo-kurobana-kihagi (Nakai June 1935), Yakushima-hagi (ex Hort.).

Habit. Korea. Prov. Tyûhoku: Rihei circa montes Zokurisan (T. Nakai no. 15000, Aug. 10, 1934, Lectotypus in TI), via inter templum Hôzyûzi et Zyôkan-an montium Zokurisan (T. Nakai no. 14698, Aug. 13, 1934, Syntypus (non vidi)).

(東京大学 総合研究資料館植物部門)

□R. M. Schuster (ed.): **New manual of bryology**, vol. 1 (p. 1-626), vol. 2 (p. 627-1295). 1983. 服部植物研究所, 日南. ¥10,000 (vol. 1), ¥11,000 (vol. 2). F. Verdoorn (1932) が “Manual of bryology” を出版して以来約半世紀を経たが, この間に蘚苔類に関する研究は著しく発展した。編者の R. M. Schuster 博士は苔類の系統分類, 植物地理などに関するユニークな論文を多数発表している著名なアメリカの研究者であるが, 現在の蘚苔類学の発展の情況から考えて Verdoorn の “Manual” の現代版を作る必要があることを強調している。vol. 1 及び 2 は一連の通し頁になっているが, 総計21章から成り, 編者自らもその内の 5 章を執筆している。主なものは蘚苔類の化学 (S. Huneck), 苔類の細胞学 (M. Newton), 蘚苔類の遺伝 (D. J. Cove), 蘚苔類の生長生理 (M. Bopp), 植物地理 (R. M. Schuster), 蘚苔類の種の問題と分類の方法論 (J. Szweykowski), その他分類, 生理, 形態などに関するものである。残念ながら生態学的な項目は P. W. Richards の “熱帯闊葉林における蘚苔類の生態” のみである。本書は蘚苔類学の現状をふまえ, この上に更に問題の提起などをしない, 将来への発展の基にしようとする意図で編まれており, その目的は十分に果たされている。各々の章には読みごたえのある論文が並んでいるが, 内容充実の程度に関してみるとやや不揃いという感じもある。蘚苔類を研究する人のみならず。蘚苔類を材料として生理学, 細胞学などの研究を行なう人にはなくてはならない文献となるであろう。 (井上 浩)